

さあ、どうしよう！携帯電話編(2時間完了)

愛知県扶桑町立山名小学校 養護教諭 桑原朱美

第1時「だってみんなが持ってるもん？」

第2時「携帯マニュアルを作ろう」

授業の意図

携帯電話はいまや、小学生にまで普及しつつある。しかし便利な道具であるはずの携帯電話がからんだトラブルは、事件に発展しないまでも日常の中で多く起こっている。特に最近のインターネットやメール機能の充実は新たな問題を引き起こしている。

携帯リテラシーを教育現場で取り扱う時、子どもたちの学習と同時に、保護者への啓発も必要である。そのためにこの授業の前後では、保護者向け保健だよりも、携帯電話に関する内容を取り上げた。また、授業を公開授業にして、保護者も一緒に学んでいただけるようにした。

この授業の前にとったアンケート(5,6年生94名対象)では、63%の子が「ほしい」と思っていることがわかった。また、子ども達が携帯電話についてさまざまな意見やイメージを持っていることや、多くの子ども達は、「中学生のほとんどが携帯電話を持っている」というイメージを持っていることなども明らかになった。そこで、「さあ、どうしよう！シリーズ 携帯電話編」では、急速に広がる携帯電話は、人々の想像をこえた使い方がされていることがトラブルや事件を引き起こしていることから、使用する人の責任の大きさが重大であることを理解させたいと考えた。子どもたちが携帯電話について、自分なりに考えていく第1歩の授業とし、学んだことを家族や地域に伝えるメッセンジャーとしての活動として広げたい。

第1時では、新しいメディアである「携帯電話」が普及した理由と急速な機能充実により、開発当初には予想もされなった使い方がされるようになっていることを取り上げたい。携帯電話を介した具体的なトラブルの事例を事前調査と中学校生徒指導部の先生からの話を通して知り、使用する人間の意識が大きく関係していることを理解する。

第2時では、前時の学習をもとに、新しく普及していくメディアの影響が計り知れないということをとりあげ、使用する人・提供する企業の責任の大きさについて学び、そこから、子どもたちの手で、家庭や地域へ発信できるマニュアルづくりをする。

第1時「だってみんなが持ってるもん？」

1 本時のめあて

- (1) 携帯電話が、発売当初、ずいぶん高価であったにも関わらず、急速に普及した点と、機能充実により、開発当初には予想もされなった使い方がされるようになっていることを理解する。
- (2) 実際に、どんなトラブルが起こっているのかを、子どもたちの事前調査とGT(中学校の先生)から知り、携帯電話と上手に付き合うには、使う人のマナー・使用の目的・危険に対する意識がポイントであることを理解する。

事前の課題(児童)…ワークシート

携帯電話がからんだ事件について調査し、記入する。

その事件はどうしたら未然に防げたかの意見を記入する。

事前の準備(教師)

子どもたちへの携帯電話意識調査 GTとの打ち合わせ 中学校の携帯所持率データ

事前調査のカードを事前に回収し、子どもたちが調べた事件をもとに紙芝居とプリントを作成しておく。

当日の準備

自作紙芝居(携帯電話事件簿)・フラッシュカード・グラフ(中学校の携帯電話についてのデータ)・ワークシート(各グループ1枚)・各自の事前学習カード
(子ども達はグループ学習の形にしておく)

2 学習過程

始めにゲストティーチャーの紹介とあいさつ

(1) 高価なものであった携帯電話が、ここ数年、急速に普及したことについて考える。

(ショルダーホンの写真をみせる。) これって、何だと思う?

電話?

これは、携帯電話のルーツともいえるものです。肩に掛けて持ちあるいたので、「ショルダーホン」といいます。1985年ごろに登場しました。重さが3000gもあって、うまれたばかりの赤ちゃんと同じくらいだから、持ち歩くのも大変でした。携帯電話ということばが使われたのは、1987年です。それでも、まだ900gもありました。ポケットに入れると、破れちゃうよね。値段もすごく高かったから、ごく一部の人しか持っていました。それでも、1992年には200gくらいまで小さくなりました。でも、値段はまだまだ高くて、大人の人でも、それほど持っている人は、いませんでした。今、携帯電話は、だいたい180gくらいです。

昔は重かったんだね。

さて、1993年のデータを見ると、携帯電話を持っている人は、わずか1.4%です。2002年の現在は、60%とも70%ともいわれています。つまりたった9年間の間に、60倍から70倍に増えたことがわかります。

また、携帯電話を持つ人も大人だけだったのが、今では、中学生や高校生も持つようになりましたね。小学生で持っている人もわずかですがいます。

短い間に、携帯電話を持つ人がすごく増えたんだね。

さて、ここで、問題です。たった9年間で、大人だけでなく若者にまで急速に広がった理由として考えられることを、思いつくままにワークシートに書き出してみましょう。ワークシートへの記入は、班長が行います。友達が出した意見にまちがっているとかあってるということはいわないで下さい。思いつくままに口に出して少しでもたくさん記入してください。時間は4分です。用意。始め。

教師は、各グループを回って助言する。(あまり口出せせず、たくさん出ているグループを「たくさん出ているね」と賞賛する程度にする)

時間です。それでは発表してもらいましょう。書き出したものを読み上げてください。聞く人は、話している人の方におへそを向けましょう。

予想される意見

本体や通話料が安くなった・軽量化した・デザインがよくなつた・メールができる・インターネットができる・着信メロディが楽しい・ゲームができる・チケット予約ができる・CMに人気タレントが出ている教師は、子ども達の意見を黒板に書く。

(2) 携帯電話は今までにない新しいタイプのメディアであり、だれも予想しなかった使われ方がされていることを理解する。

たくさんの意見が出ましたね。みんなの意見のとおり、たくさんの理由があつて携帯電話は一気に普及したのです。つまりひとことでいうと、とっても便利でいろいろなことができるからあつという間に広がったんだね。そういう意味でも、携帯電話というのは、これまでにはなかったまったく新しいメディアなんです。テレビやラジオ・新聞などのメディアと違うのは数年の間にすごい進化をして、広がってきているということです。

ところが、新しいメディアが広がると、思っても見なかつた使い方がされるようになります。さて、その辺のお話を、中学校の先生を交えて学習したいと思います。

中学校の先生に前に出ていただく。

GT

今、新しいメディアである携帯電話が急速に普及して、思いもよらない使い方がされるようになってきた、という話がありました。携帯電話が広がった理由とトラブルが起こるようになった理由は、深い関係があります。

みんなさんは、事前学習で、いろいろな事件やできごとを調べてきてくれたね。みんなが調べてきてくれたものの中から紙芝居にしてみたので、紹介しましょう。

- ・出会い系サイトの事件
- ・不幸の手紙式 迷惑メール事件
- ・ワン切り事件
- ・うそメールで500人が集まった事件

この他にも携帯電話に関係したたくさんの事件が起きています。みんなはこういう大きな事件を聞くと、どこか遠い世界の話で自分の身近では起こってないように思うかもしれないね。でも、実際には、みんなのすぐそばでも、いろいろなトラブルがおきているんだよ。

ここで、中学校の様子を少しお話しようと思います。

GT

事前の課題学習の中で、町内の中学生で携帯電話を持っている人は、何%くらいだと思いますか?という予想クイズがでていましたね。

みんなは、何%って予想した?

80%くらい

GT

(子ども達の予想グラフを見せる。)これが、みんなの予想のグラフです。60%から80%くらいの間を予想した人が多いみたいだね。では、実際のデータはどうだろうね。正解は(グラフを黒板に貼る)25%です。みんなが思っているよりずっと少ないね。先生の学校のデータでは、持っていない子が圧倒的に多いんだよ。他の中学校の様子を聞いてみましたが、だいたい同じくらいです。だから、「中学生になったら持っていないと遅れているのかもしれない」とか「みんなが持っているからもたなくちゃ」っていうことはないんだよ。

エーもっと多いと思ってたよ。

GT

ほんの1部の生徒が持っているだけなんだけど、いろいろなトラブルが、どこの中学校でもおこっているようです。あちこちの中学校でどんなことが起こっているのか、紙芝居で見せるね。

- ・メル友に会いにいった女子
- ・不幸の手紙で寝不足になった男子
- ・携帯によるいじめ、恐喝
- ・毎月2万円の通話料を使っている男子
- ・いつメールが入るかわからないからと机身はなさずにいる女子 など

いやな出来事がおこってるんだな。

N先生、ありがとうございました。中学校でもたくさんのトラブルが起こっているようですね。テレビなどで取り上げられない日常生活の中でも、たくさんのトラブルが起こっていることがわかりましたか?

1987年に、携帯電話を発明した人や携帯電話の会社の人は、こんな事件が起こるって予想できたでしょうか?

予想できなかった。

ある程度、わかっていたかもしれない。

新しいものが出てくるときは、必ずいい面と悪い面がありますが、これほどまでにいろいろな使われ方がされるとは予想できなかったのではないかと思います。そして、あまりにも、急激に携帯電話が広がったので、そのための対策がまにあっていないのです。

1月に行ったミニアンケートでは、5、6年生の65%の人が「携帯電話がほしい」と答えています。

楽しいこともたくさんできるし、みんながほしがる気持ちはよくわかります。でも、携帯電話は、おもちやではないんだね。

今、N先生から聞いたように、携帯電話によって事件を起こす人、巻き込まれる人がいます。つまり、携帯電話を使うということは、重大な責任をいっしょに背負っているということなんです。

その責任は、使う人だけでなく、それを売っている企業にもあるのです。

具体的にいうと、使用する人は、犯罪につながったりマナー違反をしないように注意しなければならないし、携帯を売っている企業は、犯罪やマナー違反を防止するような対策を考えなくてはなりません。

今の段階では、対策も遅れていますし、今後、さらに予想もつかないような使い方がされて新しい事件が起こる可能性はとても大きいと思います。

今日の授業はこれで終ります。次の時間は、いろいろな事件から、未成年が携帯を持つことによる危険について学習します。

N先生にお礼を言いましょう。

第2時 「携帯マニュアルを作ろう」【第2時については、概要のみ】

(1) 前の時間に紹介された事件やその他の事例を紹介し、どうしたら事件やトラブル、マナー違反にならなかつたのかを話し合う。

主発問

前の時間に聞いたいろいろな事件やトラブルについて、どうしたら、そんなことにならなかつたのかな？ということを次に3つの点からグループで話し合ってみましょう。時間は、3分です。

トラブルの原因を作った人の問題

トラブルに巻きこまれた人の問題

携帯電話を取り巻くその他の問題（家庭・企業・その他）

子ども達から出てきた意見をまとめながら、携帯電話の使い方を「携帯電話に振り回される使い方（ケータイのけらい）」「携帯を使って人をだましたりいたずらをしようとする使い方（ケータイ悪人）」「マナーを守り、上手に付き合うことができる使い方（ケータイ達人）」に分けることができることを説明する。

(2) 未成年が携帯電話を使う場合、大人よりもトラブルに巻き込まれる可能性が高いのは、なぜかを話し合う。

主発問

携帯電話に振り回されるのでなく、携帯と上手に付き合うことがとても大切だということはわかったと思います。しかし、どうしても、未成年は大人よりも、トラブルに巻きこまれる危険が大きいです。

それは、どうしてでしょうか？グループで話し合ってみましょう。時間は3分です。

(3) これまでの意見から、山名っ子が提案する携帯電話マニュアル「ケータイ達人への道」をグループで作成する。（マニュアル用のシートは、教師が準備する）

作成後は、これを町内の中学校や家族へ送る。